

第6回 加賀温泉駅施設整備検討委員会 議事概要

日時 平成30年 2月20日（火）10：00～12：00
場所 加賀市市民会館

出席者 水野委員長、竹内委員、上口委員、中道委員（代理）、丸谷委員、長谷川委員、古場田委員、師池委員、井野上委員、新滝委員、小中出委員、高田委員（代理）

事務局 加賀市 眞田部長、高本理事、中野室長、屋後参事、野崎氏、山本氏
金沢計画 北出氏、坂田氏
日本海コンサルタント 小滝、太田

<次第>

1. 開会 委員長挨拶
2. 検討事項について
 - (1) 駅舎デザインについて
 - (2) 環境空間デザインについて
3. 意見交換
4. 閉会

●水野委員長あいさつ

●事務局より資料説明（事務局）

- (1) 駅舎デザインについて
- (2) 環境空間デザインについて

(1) 駅舎デザインについて（検討委員からの意見）

・A～C案の3案がある中で、A案のみがホーム張出し部でのデザインとなっている。B案及びC案と同様に、A案もデザインを長手方向に広げるべきである《水野委員長、古場田委員、中道氏、新滝委員》。

・面格子の柱の太さはどれくらいなのか《小中出委員》。

→最低でも幅6cmで奥行きが15～20cmであると考えられる。建築的なデザイン性からも細かい格子ではないと考えられる《水野委員長》。

・協議資料P13の市民アンケート結果からも、若い世代はA案のデザインを支持している。若い世代の意見を重視するべきである《竹内委員、長谷川委員》。

・C案の五彩デザインは、能美市でも取り組まれているため、独自性に欠けると思われる。また、丸谷五彩の施工は、塗装や樹脂フィルムであると考えられ、実際に焼物が用いられないため、リアリティに欠けることとなる《古場田委員》。

・駅舎のデザインと駅前広場のデザインの整合性を同時に検討していく必要がある《古場田委員、長谷川委員》。

→まずは、駅舎のデザインを決め、その決まった駅舎に似合う駅前広場を検討していくことが必要である《水野委員長》。

・C案は、駅舎のインパクトが非常に大きいため、駅前広場との整合性が難しくなると思われる。シンプル性を重視し、周囲との調和が図れるようにした方がよい《丸谷委員》。

・内装に丸谷焼などの伝統工芸を展示する場合は、鉄道運輸機構が予算を設けることはない。内装は、地元から予算を積み上げて検討していく必要がある《水野委員長》。

・シンプルなデザイン性のもとで来客者に対して「ほっとする空間」を創出することが重要である。また、周辺施設（アビオシティ、美術館）との整合性を図り、駅舎デザインを決める必要がある《上口委員》。

- ・C案は、九谷焼のリアリティを表現するのに難しい印象を持つ《高田氏》。
- ・加賀市を象徴する駅舎デザインを検討したい。重伝建地区では赤瓦が有名なため、今回の計画でも取り入れていきたい《小中出委員》。
- ・九谷焼などの伝統工芸は、駅舎の中（内装）で感じることができるデザインの方が良いと思われる《新滝委員》。
- ・一般車駐車場やタクシープールから乗り降りした際に、現A案では、何もデザインされていない駅舎が正面にきてしまうので、改善する必要がある《新滝委員》。
- ・協議資料P12のパブリックコメント数とP13の市民アンケート集計数は、どういった関係性があるのか《新滝委員》。
- P12の集計数とP13の集計数は別類での集計結果となる。P12はホームページを通してパブリックコメントを募ったデータであり、P13は投票形式で市民によるアンケートを募ったものである《中野室長》。
- ・明かりを照らした際の格子外観が落ち着いたものとなるようにしたい《新滝委員》。

(2) 駅舎デザインについて（決定事項）

- ・駅舎デザインの決定に際し、出席委員内で投票を行った。
- 投票の結果、加賀温泉駅の駅舎デザインは、A案【縦格子案】で決定した（投票結果は、A案：8票、B案：0票、C案：3票）。ただし、A案の決定に際し、以下の4つの条件をもとに今後デザインの検討を進めていくものとする。
 - ①格子範囲をB案及びC案と同様の位置（長手方向）まで広げる。
 - ②ベース色を全体に広げる計画とする（前委員会検討事項）。
 - ③下屋に設ける庇部分には、赤瓦を使用する。
 - ④ガラスの清掃を考慮した格子のデザインを検討する。

(3) 環境空間デザインについて（検討委員からの意見）

- ・駅前広場を検討する際は、サイン計画にも配慮し、利用者にとって分かりやすい空間形成が必要となる《新滝委員》。
- ・大雪に備え、除雪対策も考慮してデザインを検討するべきである。また、現計画案ではラウンドアバウトが計画されているが、大雪による心配はないのか《新滝委員》。
- 大聖寺にラウンドアバウトの実績が存在するが、今日の豪雪でも、うまく機能を果たしていた。むしろ、ラウンドアバウトは、大雪に強いと考えられる《眞田部長》。
- ・協議資料P21のStep. 2とStep. 3は、何が違うのか《古場田委員》。
- Step. 2は、半屋外空間であるのに対し、Step. 3は、屋根の下部にガラス張りの風除けを設けているところに違いがある《コンサル》。
- ・ガラス張りで風除けとするのであれば、夏場はどうする予定か《中道氏》。
- 窓を設けることや、空調設備を整えることで、調整する予定である。内装の細かい検討事項は、外装デザインが決定次第、協議を重ね検討していくことになる《コンサル》。
- ・今後、パースを示す際は、スケール感を合わせて提示するようにしてほしい。協議資料P30のパースだと、大きな環境空間が形成されるイメージを持ってしまう《古場田委員》。
- ・B案の正面は、どういった構造を予定しているのか《新滝委員》。
- B案の正面は、まちへの広がり感を演出するためのガラス張り構造を予定している《コンサル》。
- ・待ち合い空間を創出する際、座って待てる空間（ベンチ等の配置）を十分に設けるべきである《古場田委員》。
- イベント空間の創出と整合し、ベンチ等の有効な配置計画を検討していく《コンサル》。

(4) 環境空間デザインについて（決定事項）

- ・環境空間デザインの決定に際し、出席委員内で投票を行った。
- 投票の結果、加賀温泉駅の駅舎デザインは、B案【切妻屋根案】で決定した（投票結果は、A案：2票、B案：7票、C案：2票）。

(5) 今後の予定

- ・検討委員からの指摘事項を受け、修正可能箇所を修正する。